

# i-農力だより

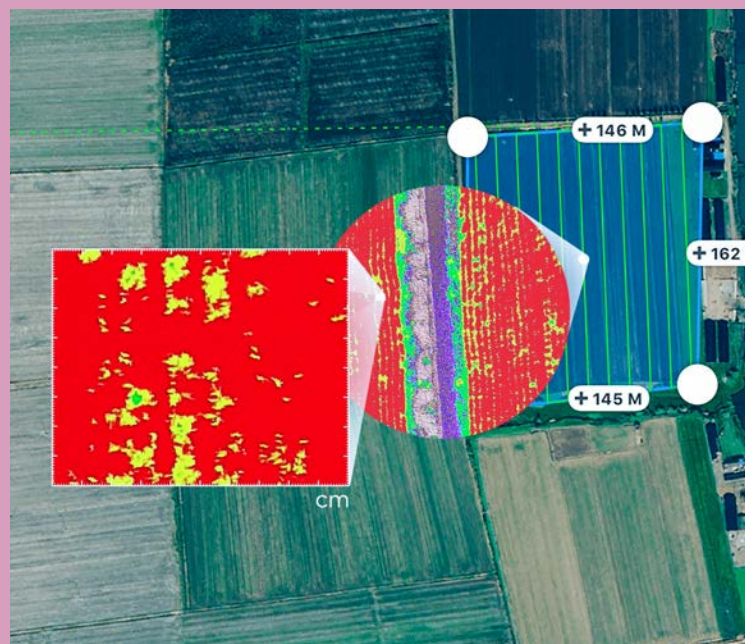
2021年春号 (151号)



ごあいさつ.....	P.2	読者プレゼント.....	P.6
農業 TOPEYE .....	P.3	編集後記.....	P.6
季節のご相談から.....	P.5		



(農業 TOPEYE) DJI JAPAN 株式会社  
農業ドローン推進部マネージャー 岡田善樹氏



センシングドローンの画像データイメージ

# ごあいさつ

住友化学株式会社 代表取締役 専務執行役員 健康・農業関連事業部門 統括  
水戸 信彰



春の日差しが心地よく、新緑がまばゆい季節となりました。皆さまにおかれましては、日ごろの農作業にお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。また、新型コロナウイルスの感染の影響が続いており、さぞ、ご心労のことと拝察申し上げます。このような状況の中、平素より弊社および住友化学アグログループの農薬・肥料・生産資材のご愛顧、そして「i-農力だより」のご愛読を賜りまして誠にありがとうございます。

日本の農業を取り巻く環境は、農業人口の減少や海外農産物とのコスト競争、非耕作地の増大等、様々な課題を抱えています。また近年、世界的な気候変動による環境、農業への影響は年々深刻になりつつあり、国内においても自然災害や異常気象が増える傾向がみられます。

住友化学アグログループは、このような日本の農業が抱える課題の解決にお役に立てるようグループ一丸となり取り組んでおります。特に新製品の開発、農業現場におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、またスマート農業への取り組みに注力しております。

新製品においては、昨年、園芸用殺菌剤「カナメフロアブル」、水稲用除草剤「ゼータプラス」の販売を開始し、本年は、「ゼータジャガー」などの水稲用除草剤を発売予定です。また新規殺虫剤オキサゾスルフィルが本年3月に登録されました。

DXの推進においては、長年ご愛用頂いている「i-農力」の利便性を高めるべく、昨年7月にはスマートフォン版を整備し、同時に昨今農業業界でもその活用が広く認知されてきているSNS（YouTube）の公式チャンネルも開設致しました。コロナ禍にあっても、当社製品への親しみを持っていただけますよう、このようなデジタルツールを活用して、製品やサービスの情報提供を強化して参ります。

スマート農業においては、ドローンが利用できる製剤の開発に努め、すでに水稲用除草剤では、FG剤（Floating Granule/水面を浮遊して自己拡散する粒剤）を開発し、多くの生産者の皆様にご使用いただいております。現在、水稲以外の作物にも適用可能な製品・製剤を開発中です。

住友化学アグログループは、農業従事者の皆様と共に日本の農業がさらに元気になれるよう、そして皆様の第一ブランドになれるよう、日々の業務に精励致す所存でございますので、今後も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、本年度も皆さまにとって実り多き一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



# 農業

≡ TOP EYE ≡

第7回

「農業 TOP EYE」は、経営・農業機械・人材教育・販売などをテーマに、多彩な業界のキーパーソンにインタビューし、農業経営に役立つ情報をお届けするコーナーです。

このコーナーでは、昨年より AI や ICT など先端技術を活用した「スマート農業」をテーマに、その代表的存在として普及が進む『農業用ドローン』を特集しております。

今回は、ドローンの世界的リーディングカンパニー DJI 社の日本法人である DJI JAPAN 株式会社の農業ドローン推進部 マネージャーの岡田善樹氏にお話を伺いました。

**長年培ってきた飛行制御技術と  
充実のサポート体制により、  
信頼性の高いドローンを農業の現場へ。**



## DJI JAPAN 株式会社

農業ドローン推進部 マネージャー

## 岡田善樹 氏

取材日：2021年2月2日

まず  
御社がドローンに  
関わってきた  
経緯について  
教えてください。

**岡田氏** DJIは2006年に、マルチコプターの飛行制御システムを手がけるメーカーとして中国で創業した、全世界での従業員数が1万人を超える企業です。

農業用ドローン事業は中国で2015年からスタートし、日本では2017年より本格的な展開をはじめました。2017年以前は、空撮用ドローンなどのコンシューマー向け製品がメインでしたが、現在は農業用をはじめ、測量、建築などの産業用ドローンの需要も大幅に増えているような状況です。おかげさまで農業用ドローンの分野で、日本国内の大きなシェアを占める位置まで成長することができました。

**国内の農業用ドローンのユーザー層やニーズについてはいかがですか。**

**岡田氏** 薬剤散布の作業時間の効率化・労力の軽減を期待して、農業用ドローンを導入されるお客様が多いですね。社内のデータによると、お客様の平均年齢は45歳で比較的若い方が多く、作付規模で言うと10ha以上の大規模のお客様が多いようです。

お客様からは、「新しい技術を積極的に取り入れたい」「夏の暑い盛りに、動噴を背負って田んぼの中に入りたくない」といった声をよく聞くので、導入の背景には『最先端の技術や情報』『省

力化』に対する強いニーズがあるように感じます。

## 御社の農業用ドローンの強みや他社との差別化ポイントについてはいかがですか。

**岡田氏** 弊社のドローン製品には2つの大きな強みがあります。一つは、「高度な飛行制御技術」で、もともと DJI は 2006 年からシングルローターのヘリコプター制御装置を手がけるなど、飛行制御の技術・ノウハウを蓄積してきました。こうした安定して飛行するための制御技術をベースとして、信頼性の高いドローン製品を展開しています。

もう一つは、「自社での設計・開発、製造」です。ドローン機体の設計・開発はすべて社内で行い、製造も一部分を除いてほぼ自社製造となっています。これにより、例えば部品の不具合が生じた際にもスピーディに対応し、機体のアップグレードに反映するなど、よりフレキシブルな顧客対応が行えます。



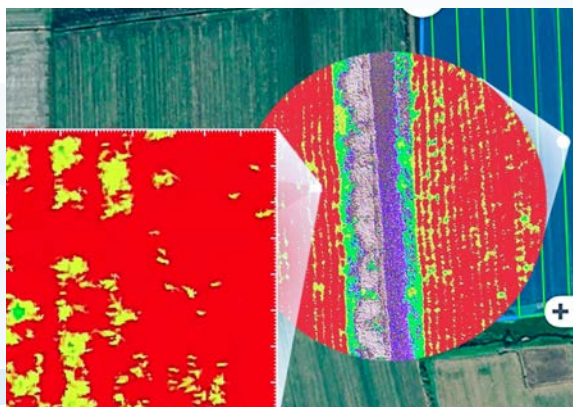
高度な飛行制御技術を搭載した、農業用ドローン AGRAS MG-1 (左) と AGRAS T20 (右)

## 製品ラインアップを具体的に教えてください。

**岡田氏** 現在、弊社の農業用ドローンは大きく分けて2つのラインアップがあります。一つは農薬散布ドローンで、これは農薬や種子の散布に使用されています。もう一つはセンシングドローンと呼ばれるもので、作物の生育状況の確認に使用される製品です。

日本国内では、主に「AGRAS MG-1 シリーズ」「AGRAS T20」という2つの農薬散布ドローンが普及しており、対象作物は水稲がメインです。ドローンを活用することで薬剤散布の効率化、労力の軽減を期待して導入されているお客様が多いですね。

また、センシングドローンについては、「P4 MULTISPECTRAL」という製品になります。この製品は、可視光のブルー、レッド、近赤外線など波長の異なる光に対応する6つのセンサーを内蔵したカメラを搭載し、各波長の反射率により植物の健康状態を判断できるマルチスペクトル画像収集が可能です。撮影により得られた画像データを活用し、作物の生育状況を多様な角度から分析することができます。



センシングドローン P4 MULTISPECTRAL の画像データイメージ

## 農薬散布ドローン「AGRAS MG-1 シリーズ」「AGRAS T20」の特長やセールスポイントを教えてください。

**岡田氏** 「AGRAS MG-1 シリーズ」と・・・

「農業 TOP EYE」の続きは  
i- 農力サイトへ

# 季節のご相談から

お客様相談室

## 1. 栃木県 農家の方

Q：稲種粉消毒でスポルタックスターナ SE を使用予定です。種粉の重量は40kg ですが、薬剤の必要量と使用上の注意点を教えてください。

A：種粉 40kg の場合、浸漬処理に必要な薬液量は約 80L です。200 倍液 24 時間浸漬では本剤 400ml を水で希釈して 80L にし、処理液としてください。使用上の注意点は以下の通りです。①浸漬開始後、まず種粉をいれた袋をよくゆすってください。②浸漬後、種粉を風乾してください。効果が安定します。③催芽前の浸種(予浸)では種粉と水の容量比は 1:2 とし、浸種中は水の交換は行わないでください。ただし、高水温で酸素不足になる場合は静かに換水してください。④催芽～出芽期間の高温管理は細菌病の発生要因ですので、必要以上に加温しないよう注意してください。



## 2. 千葉県 農家の方

Q：昨年、スクミリンゴガイによって稲が甚大な被害を受けました。今年は薬剤防除を予定していますが、住友化学ではどのような薬剤がありますか。

A：弊社にはスクミリンゴガイの防除剤として「ジャンボたにしくん」、「パダン粒剤 4」があります。「ジャンボたにしくん」(有効成分：メタアルデヒド)は製剤が食べられることにより殺貝効果を発揮します。スクミリンゴガイを見つけやすいよう散布粒数を多くしています。「パダン粒剤 4」(有効成分：カルタップ塩酸塩)は、水中に溶出した成分が行動を抑制して稲が食害されるのを防ぎます。また、カルタップ塩酸塩を含んだ水稲用初期一発処理除草剤「ショウリョク S 粒剤」があり、雑草防除と同時にスクミリンゴガイの防除が可能です。



## 3. 岡山県 農業法人の方

Q：水稲と麦の 2 毛作で、6 月中下旬に長稈の晩生品種を田植えします。倒伏軽減が図れる基肥一発肥料はありませんか？

A：「楽一 28W (28-8-8)」をお薦めします。この肥料の特長は、①倒伏軽減剤入り基肥一発肥料で、水稲の倒伏軽減が図れます。②倒伏軽減剤の溶出もコントロールした、独自の肥料です。③中晩生品種の生育に合わせた好適な肥効が、基肥施用で収穫期まで持続します。④対象品種の限定はありませんが、にこまる、ハツシモ、森のくまさん、朝日、あけぼの、山田錦、雄町、滋賀羽二重糯、他に適しています。⑤高窒素成分 (28%) のため、10a 当たり使用量は 20 ~ 40kg (窒素成分量 5.6 ~ 11.2kg) で、らくらく施肥できます。また、使用方法は耕起～代かき時の全面施用土壌混和、田植え時または播種時の側条施用です。





地方の特産品（お菓子や加工品）を、愛読者の方々に抽選でプレゼントします。中身は編集メンバーが選んだ詰め合わせで、何が届くかはお楽しみ！たくさんのご応募お待ちしております！



これまでのプレゼント（写真は3名分）

**応募期間：2021年4月12日（月）～6月11日（金）**

**応募条件：本誌のご意見・ご感想を50字以上お寄せいただいたi-農力会員様**

**賞品：地方の特産品詰め合わせ**

**当選者数：3名**



ご応募はこちら



## 編集後記



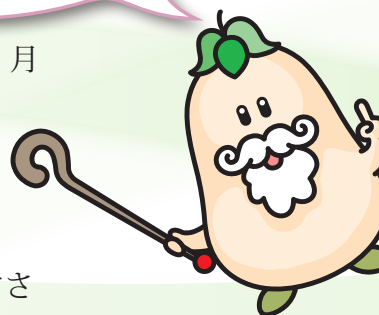
次号も  
お楽しみに♪

今年も弊社のビルの横を流れる墨田川沿いのソメイヨシノの桜が見事に満開となりました。ちなみに、今年の東京の桜の満開の3月22日は、観測開始以来2002年の3月21日に次ぎ過去2番目の早さであったそうです。残念ながら今年のお花見はコロナ禍によりお預けとなりましたが、来年の桜の咲く時期に、以前の様にお花見を満喫できることを願うばかりです。

今回、「農業 TOP EYE」の農業用ドローン特集では、DJI社の岡田様取材させていただきました。今回の取材では、ドローンの普及状況や新たな活用に関してもお話を伺い、今後、農作業の効率化・省力化に欠かせない、まさに、スマート農業を牽引するテクノロジーとなっていくと確信しました。

「農業 TOP EYE」はスマート農業をテーマに、これまで3回にわたり農業用ドローンの各社の先進的な取り組みを特集し、今回が特集の最後の記事となります。i-農力会員になりますと、この「農業 TOP EYE」の他、「農家さん訪問記」のバックナンバーも閲覧いただけるなど、多数の特典がございます。まだ会員になられてない方は、この機会にぜひi-農力会員にご登録ください。今後、i-農力やYouTubeを通じて、様々な情報を提供いたします。

大塚




2021年4月12日発行 i-農力だより 春号 通巻157号  
発行人／檜山 一郎 編集人／鈴木 欣也  
発行／住友化学株式会社 アグロ事業部

大地のめぐみ、まっすぐ人へ  
SCC GROUP

 住友化学

〒104-8260 東京都中央区新川1丁目27番1号

お客様相談室  0570-058-669

農業支援サイト  <https://www.i-nouryoku.com>

